

04 株式会社 水鳥工業

本社:静岡県葵区平町1丁目18番22号
<https://www.geta.co.jp/>



original japanese geta

1937年創業、下駄木地製造業を始める。1975年にシューズ中底の加工を開始する。1989年に足裏にフィットした手彫り下駄の製品作りを始め現在の製品に至る。水鳥の下駄は「日本一はき心地の良い下駄づくり」を目指し、お客様の声をもとに、機能性・安全性・デザインなどの改良を重ねながら、時代のニーズに合わせて、オリジナル性溢れたより良い下駄の開発に取り組んでいる。2005年、グッドデザインしずおか2005大賞「ひのきはきもの」受賞。2006年、サライ大賞「ひのきはきもの」受賞。2010年、第70回東京インターナショナル・ギフト・ショー、新製品コンテスト大賞「SHIKIBU」受賞。2015年、日本が誇るすぐれた地方産品“The Wonder 500™”認定「two peace」。

他業種とのコラボレーション

水鳥工業の製品デザイン、技術の多様化・多角化は計画的に行われたものではなく、デザインや木材加工業など各業種とのコラボレーションにより、互いの強みを集結させて出来上がったものであった。それは経営者の方のアドバイスを受けて実行する力、やってみようという姿勢から結果的にブランド構築になっていた。

このような他業種や他企業とのコラボレーションにより、今までになかった新しい下駄を生産することができる。「驚くものを作る企業」という水鳥工業のイメージができあがっている。



デザイナーとのコラボレーション

伝統



多彩な製品ラインナップ



工場の様子

下駄からのライフスタイル提案

水鳥の新しい商品の提案は、和装でしか履かない、靴擦れをするというこれまでの下駄の典型的固定概念を覆す新鮮なものである。なぜなら水鳥の下駄は改良や新開発をする中でも、様々な装いにフィットするファッション性と履くほどに足になじむ履き心地は絶対に外さないようにしているからである。

水鳥の下駄はスタイリッシュで、下駄の伝統的な美しさは残しつつ、洋服にも合うデザインとなっている。また、木の形状が足の形にフィットするように作られていることから、歩いても疲れにくい。海外（アメリカ・フロリダ州）では、わざわざ遠方から買い求めるお客様がいるほどである。また、足腰の弱ったお年寄りが水鳥の下駄でスムーズに歩けるようになった話もある。

新しい形の下駄を提案することで、新しいライフスタイルの提案を行っている。

水鳥工業の「ものづくり精神」

確実に売れる見込みのあるものだけを作るのではなく、その企業の作りたいものを作るという、本来のものづくりの姿勢が水鳥工業にはある。

時代に柔軟に対応する姿勢の一方で、サイズやデザイン展開では自社オリジナルを追求している。世界進出していく際も自社オリジナル商品のまま提供をし、受け入れられている。

「水鳥ブランド」がより消費者に受け入れられることをこれから期待したい。



水鳥友紀子副社長と学生の談笑

学生の視点による 静岡イノベーション 企業紹介

制作

静岡県立大学「地(知)の拠点整備事業」
地域づくりワーキンググループ(2017年度)

代表:宮崎晋生(国際関係学部講師)

制作協力:国際関係学部宮崎研究室

4年 秋野未有 石田萌 野田侑希 平野彩夏 町田香菜

3年 北村由依 長島佳寿美

お問合せ

静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター

TEL:054-264-5441

shizuoka-coc@u-shizuoka-ken.ac.jp

<http://www.coc.u-shizuoka-ken.ac.jp>

平成26年度採択文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)「地域づくりワーキンググループ」による工場見学ツアーでの学生報告から、静岡県から世界で活躍する「イノベーション企業」を紹介します。